

フェーズ		発災(地震発生直後)	残留・退避(地震発生直後～3時間後)	滞在(3時間後～12時間後)	帰宅(12時間～72時間)			
想定される状況		・公共交通機関の運行停止 ・駅周辺の人々が行動開始	・駅前では急速に滞留者が増加	・一時滞在施設の開設 ・行き場のない滞留者の受入	・駅周辺の混乱が徐々に収拾 ・公共交通機関の復旧			
(主な行動)		利用者保護・一斉帰宅抑制	情報の収集・提供	滞留者への支援	帰宅支援			
滞留者		屋内:施設の係員に従って行動 屋外:オープンスペース等で待機		行き場のない滞留者は一時滞在施設へ	運行再開した交通機関 や代替交通手段により帰宅			
駅周辺事業者 (大規模集客施設・オフィス等)		一斉帰宅抑制(施設内の利用者を安全な場所で保護)		利用者に一時滞在施設開設の案内	利用可能な交通機関等の案内			
		施設安全点検	可能な範囲で滞留者の保護					
		施設内で待機できない場合、利用者をオープンスペースへ誘導						
一時滞在施設		一斉帰宅抑制(施設内の利用者を安全な場所で保護)	施設安全点検	市要請により一時滞在施設開設判断	開設準備	一時滞在施設開設・運営	利用可能な交通機関等の案内	一時滞在施設閉鎖
鉄道事業者		駅構内の安全確認	駅前滞留者に対する案内 (運転再開見込み・一時滞在施設等の情報提供)			運転再開情報の提供		
町田市	災害対策本部	駅周辺での被害状況調査・情報収集			一時滞在施設開設要請	一時滞在施設への案内	一時滞在施設閉鎖判断・閉鎖要請	
	現地事務局	現地事務局にて情報収集・情報提供						

新宿区では、発災時に行動する際の指針として、『新宿ルール実践のための行動指針』を定めている

フェーズ	① 発災	② 残留・退避	③ 滞在	④ 帰宅
期間	混乱の収束まで	一時滞在施設の開設まで		交通機関の復旧 (代替輸送手段の確保) まで
行動の概要	混乱を抑える 身の安全を確保する	行き場のある滞留者を待機させる	行き場のある滞留者を引き続き滞在させる	滞留者を利用可能な交通機関で帰宅させる
		行き場のない滞留者を避難場所等に誘導し待機させる	行き場のない滞留者を避難場所等から一時滞在施設に誘導し、滞在させる	

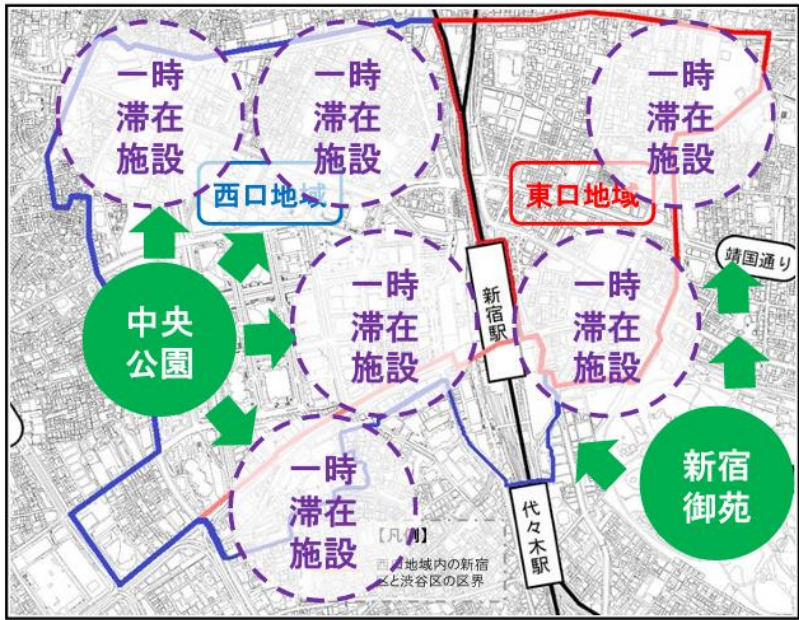
①発災



②残留・退避



③滞在



(出典)新宿ルール実践のための行動指針

施設内に留まらない人、屋外にいる行き場のない滞留者が一時滞在施設が開設されるまで待機できる場所(一時待機場所)を予め定め、町田駅周辺の統一のルールとして周知を行う必要がある



多くの滞留者が待機できる場所を考慮すると、せりがや公園、町田シバヒロが候補として考えられる